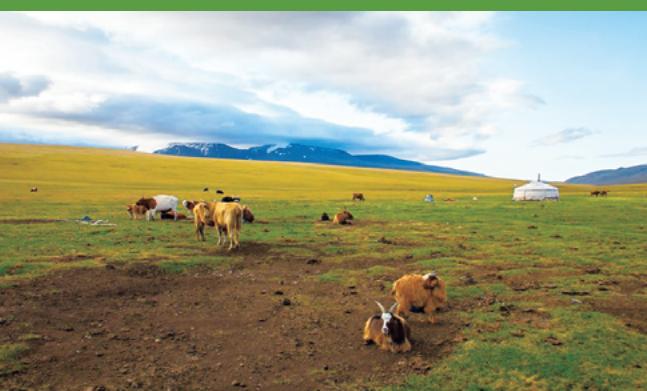


モンゴル語専攻

◎ モンゴルの言語と文化に強い関心を持ち、モンゴル語を習得して、異文化としてのモンゴルの多様性を積極的に学ぼうとする明確な目的をもった情熱ある人。



ゲルと家畜

私たちの暮らす東アジアの北に位置するモンゴル国は、1990年代初頭の民主化以降、日本人にとって非常に身近なアジアの一国となりました。それまでの社会主義であった時代には考えられないほど、双方の人々の往来は自由で活発なものとなっています。毎年日本からは、多くの観光客やメディア関係者らがモンゴルを訪れ、報道や特集も日常的になっています。また、日本では国技とされる相撲界でのモンゴル人力士の活躍も目覚ましく、連日メディアを賑わせていますが、モンゴル語は、このような私たちにとって身近なアジアの隣人であるモンゴル国の公用語です。

本学モンゴル語専攻では、そのようなモンゴルについて、その言葉の学習を通じて、文化や歴史、自然、民俗、宗教、思想、社会、方言など、関連する様々な方面への理解を深めます。モンゴル語の語順は、日本語と同じくいわゆるSOV型です。名詞類は日本語の「てにをは」に当たる格変化を持ち、動詞の活用も基本的に規則変化します。英語などと違い、日本語の語順で考え話すことができる、非常に学びやすい言語の一つです。文字は2種類使われています。1つは13世紀にチンギス・ハーンが建てたモンゴル帝国以来800年あまりに渡って使われてきた縦書きのモンゴル文字と、1940年代に新たに導入されたロシア文字基盤のアルファベットですが、その両方を学びます。日本人スタッフとネイティブによる授業で、1-2年次には、生きたモンゴル語を基礎からしっかり身につけます。3-4年次には、学んだそのモンゴル語を生かして、卒業論文の作成等を目指し、各人の興味ある分野をより突き詰めて研究できるようなカリキュラムになっています。

本学での学生生活は、1年次には豊中キャンパスで、2年次以降は箕面キャンパスで勉強します。大学内では、各種クラブ活動やサークルに参加したり、在学中に休学して、モンゴルや中国、英語圏などへ留学し、語学力等の向上を目指す意欲的な学生もいます。

本学モンゴル語専攻は、旧大阪外国语大学モンゴル語科を引き継ぎ、大阪外国语学校以来九十余年の長きにわたる歴史を持っています。特に作家、故司馬遼太郎氏の出身としても知られてきましたが、卒業後の進路に関しては、そういう文筆活動のみならず、大学でのキャリアを生かし、外務省をはじめJICAや、新聞社などの海外特派員、企業の駐在員といった、国際舞台に活動の場を見出した人も多くいます。また、教育者となって全国各地で教鞭をとったり、進学して研究者になったりと様々ですが、就職状況も例年概して良好です。

皆さん、一緒にモンゴル語を学びましょう。



草原と湖



ラクダとゴビ砂漠

「サイン バイノー」

Сайн байна уу?

学生の声



4年 西村 僚之佑

初めまして。モンゴル語専攻について、少し紹介します。

モンゴル語を書く際に使用される文字には、モンゴル文字とキリル文字の二種類があり、本専攻の授業ではどちらも勉強することができます。モンゴル語で使用されるキリル文字とロシア語のキリル文字は、似ているのですが、文字の発音は、ロシア語とは若干の違いがあります。本専攻の授業で使用される3冊の教科書（『初級モンゴル語』、『初級モンゴル語練習問題集』、『モンゴル語ことわざ用法辞典』の3冊で、学外の方でも購入できます。）のおかげで、1・2回生の間にモンゴル語の基礎を固めることができました。本専攻では、この教科書を使用しているので、綺麗なモンゴル語を学ぶことができます。

私は、モンゴル国で2度年を越すという貴重な経験をしました。冬は、マイナス20度くらいにもなり、血も凍るような寒さとはこのことかと実感しましたが、モンゴル語を話せたおかげで、モンゴルの方々の温かい心に触れることができました。

モンゴル国の方には、モンゴル語を外国人が話すととても喜ぶ方が多くいらっしゃいます。私もモンゴル語を勉強したおかげで、多くのモンゴル人の方々と楽しい時間を過ごすことができました。皆さん是非、モンゴル語という言語を学んでみてください。



留学体験記



4年 小田 愛美

モンゴルの気候は驚きの連続です。カラッとして快適な夏は短くあっと言う間に秋が過ぎ、朝晩はマイナス30度まで冷え込む長く厳しい冬が続きます。やっと冬が終わったと思ったら春は春で猛烈な砂嵐が起きたり5月なのに雪が降ったりと、実に変化に富んでおり非常に面白いです。

私は3年生の8月から交換留学生としてモンゴル国立大学で学んでいます。平日は朝7時半から11時まで授業を受け、午後はザハ（市場）で買い物をしたり馬頭琴の練習をしたりしています。また、日本語学校でモンゴル人の若者たちに日本語を教えています。夜は宿題をしながらルームメイトのモンゴル人と何時間も語り合うなど、とても楽しい日々を送っています。休日は首都ウランバートルを離れ田舎でヤギを追いかけて毛刈りをし、冬は凍りついた大きな湖の上を犬ぞりで滑り、夏は馬に乗って草原を駆け抜けました。また長期休暇中は鉄道に乗り、ゴビ砂漠に在る友人たちの故郷を訪ねてモンゴル、内モンゴルの旧正月を祝うなど、ここにはすべて書き表せられない程、人生初の心躍る経験をたくさんしました。もちろん苦しい経験も数多くあり何度も心が折れそうになりましたが、その度に様々な人に支えられ乗り越えてきました。留学で得るすべての経験は、自分が将来力強く生きるための糧になると私は信じています。

みなさんも私のように楽しく遅しく、充実した1年をこの魅力たっぷりのモンゴルで過ごしてみませんか？

